



作文1部

全国農業協同組合中央会会長賞

たすけてくれたおかゆさん

東京都新宿区立柏木小学校一年

田村 風葡

「おいしい！もつとちようだい。」

ぼくは、夏休みに一日だけいつもの白いごはんではなく、おかゆをたくさんたべました。

ぼくはおかゆのやわらかいところが好きです。だけど、家ではおかゆではなく山形けんにすんでいるおばあちゃんがおくつてくれるお米でたいた白いごはんをたべます。おかゆよりごはんの方が力がつくからです。おかゆをたべるのは、ちようしがよくないときです。

ある日、ぼくはねつを出しておなかもいたくなつてきもちわるくなりました。朝からなにもたべたくなくてずっとずっとねていました。おかあさんにたべたいものはないかときかれても何も思いつきませんでした。じかんがたつてから、おかゆをたべるかきかれてすぐにたべたい！と思つてふとんからで

ることができました。お母さんが作ってくれたおかゆにはシラスが入っていて、ほんのりしておあじがしました。すごくおいしくて、ペロリとたべてすぐにおかわりをしました。おかわりの時にシラスとうめぼしと、たまごふりかけのどれを入れたいかきかれたので、ぼくは

「ぜんぶ！」

とこたえました。ぜんぶ入りのスペシャルおかゆがはこばれてくると

「うわあ！」

とこえをだしました。おかゆが赤、白、きいろになつていたので、何だかうれしくなつたからです。スペシャルおかゆは3かいもおかわりしました。あんなにぐつたりして何もたべたいと思わなかつたのに、うそみたいにおかゆをたべたら元気が出てきました。元気がないとぼくのすきなどくしよもおわらいを見たいというきもちにもならないので、おかゆにたすけてもらつていつものぼくにもどりました。

おかゆでも、力をつけられるのを体でかんじられました。ありがとう、おかゆさん。